

(別記様式第3号)

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)乙第1213号	氏名	平島 定
論文審査担当者		主査教授	江石清行
		副査教授	矢野捷介
		副査教授	相川忠臣
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、慢性腎不全患者の内シャント造設術における経皮的ニトロ剤の有用性を明らかにしようとする臨床研究であり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に対する評価 まず内シャント造設術後の血管内皮機能係数、内頸動脈 IMT を測定し、術後血管れん縮の程度を評価した。次に同様な機能についてニトロダーム TTS を貼布した群と貼布しない群とで比較検討し、ニトロダーム TTS のれん縮予防効果を解析したものであり、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、術中のニトロダーム TTS は血管れん縮を有意に予防でき、また血管れん縮が発生したとしても、その程度を低下させることが可能であると考えられた。また血管れん縮の発生は術前 IMT の測定から予知が可能であり、さらに IMT が小さい症例で特に、ニトロダーム TTS の使用が血管れん縮の予防に有効であると考えられた。</p>			
<p>以上のように本論文は、内シャント造設術の安定した開存性の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと。